

礼拝さいこう

誰と一緒に礼拝？ 賛美歌の言葉の再考から

賛美歌検討委員会議のとりくみの中で、昨年度、特別委員会の皆様より『新生讃美歌』アンケートにご協力をいただいて以来、第12回全国礼拝音楽研修会でのフォーラム等で課題を共有してきました。今号の「礼拝さいこう」ニュースレターでは、前号に引き続いて「誰と今礼拝するのか？」をテーマに、「礼拝」と「賛美歌のことば」の課題を切り口として、特別委員会の2委員会よりご寄稿いただきました。それぞれの教会で、「誰と礼拝？」の対話が起こされていくことを願っています。

「礼拝が変わる、礼拝を変える」

日韓・在日連帯特別委員会 松坂克世(旭川東光)

先日、旭川で行われた第13回礼拝音楽研修会に参加しました。その折りに「今、誰と一緒に礼拝？」というテーマで学びと分かち合いが持たれました。礼拝の重要な要素(エレメンツ)の一つである音楽、そして賛美というものを通して、自らを形づくる礼拝を考えるに足るものでした。それは毎週欠かさずに教会が行っているものであり、あらゆる人に開かれているものであり、そして、このわたしもそこに招かれてい

る者の一人であるということを再確認することができました。

あらゆる人びとに開かれている礼拝であろうとするならば、そこにいる人たちによって礼拝が変わってゆくものでしょう。当然、歌う賛美歌も変わるはずですが、人が変わってもなお賛美歌が変わらないとなると、本当にその礼拝は開かれたものであるのかということを吟味する必要があるのではないのでしょうか。また、集まる

Index

1-3	誰と一緒に礼拝？ 日韓・在日連帯特別委員会 松坂克世 (旭川東光)
	性差別問題特別委員会 岡田富美子 (那覇新都心)
	「新生讃美歌ブックレット」発行へ向けて
4-12	第13回礼拝音楽研修会報告 江原美歌子、小松澤恵、宇都宮毅、松坂克世、田森茂基
13	神戸地区音楽研修会報告 西脇慎一 (神戸)
14	教会音楽室からのご案内

人たちによって礼拝を変えようとすることも起こってくるでしょう。次はこうしてみようと、常に試行錯誤の連続です。正しい答えはありません。何とか「わたしたちの礼拝」というものを模索し続けています。

日韓・在日連帯特別委員会で長年運動を担ってきた方が一つの賛美歌を紹介してくれました。334番「来ませ 来ませ」（原題「オソソ」）というものです。日本バプテスト連盟の歴史の中で、1960年代後半から特別委員会の働きが始まって行きます。それは自立と協力を掲げつつ自給化へと舵を切ってゆく時代と重なります。「一つひとつの教会が誰と共に生きようとするのか」が可視化した結果の一つと言えるでしょう。わたしたちの委員会も、在日コリアンへの指紋押捺制度に反対し、さらに韓国での民主化闘争に連帯してゆこうと、日本各地での取り組みに呼応して運動が続け

られてきました。その中で、違いを超えて歌い継がれてきたのがこの讃美歌です。「『オソソ』歌おう」が合言葉になっていました。4節には「来ませ来ませ、統一の主」と出てきます。統一とはまず朝鮮半島の統一である、と同時にあらゆる紛争や内戦に向かって、主よ来ませと歌うものです。しかしいずれの戦いも人間が行っているものです。イエスさまはやく来てくださいと祈る一方で、無駄な殺し合いは止めようと願いつつ歌うものでもあると信じています。

教会という交わりに与えられる人びとによって、恐れることなく変えられて行きましょう。そして出会いを結ばれる主を畏れつつ、礼拝を大胆に変えて行きましょう。わたしたちの礼拝はあらゆる人びとに開かれているのですから。

ジェンダー(社会的・文化的性差) 間の平等へ

性差別問題特別委員会 岡田富美子(那覇新都心)

「カナダ国歌『オー・カナダ』の歌詞を一部変更し、性の区別をなくす法案が2月7日同国総督によって承認された」（琉球新報2月9日）と報じました。「汝の息子すべての中に流れる真の愛国心」という歌詞が「われわれすべてに流れる愛国心」に変わりました。たかが数文字ではありますが、カナダという国や国民が大切にしたいことを実行する一步を見てうらやましかったです。平和憲法番外地で表現の自由すらない沖縄からは。「国歌」、「愛国心」ということについてさらに掘り下げがなされていくことに期待したいと思います。

小さなことのすり込みが私たちの意識に繋がっ

ていきます。国が教育に力を入れる理由がそこにあると思います。国のありかた、目指す方向にうかうかしているともっていかれます。わたしたちの中の当たり前も神に聴いていく必要があると思います。

神さまから、み言葉を頂きながら、礼拝のときにささげる賛美の歌詞に「あれ？少し違うんじゃない」と思うことがあります。作詞者、作曲者、訳者が祈りつつ、捧げてくださった賛美歌ですから、余計に残念です。「喜べみなたえよ主を」（361）の4節の「雄々しくあれ」という歌詞では、「雄々しい」ことは良いことで、「女々しい」ことは悪いことであるという対称の中で「男

性らしいことが良いこと」が示唆され、また「父なるみ神はいとつよきみ神」（119）等、神を父と結びつける歌詞では、神の姿を矮小化されてはいないでしょうか。また「悩める世人に伝えよう」という歌詞がありますが、私たちが優位に立っている感を与えていないでしょうか。男、女、救われた人、そうでない人というように二元論的な歌詞がみられるところがあります。また、「神とわたし」から脱し、「神とわたしたち」という社会的な面への広がりが見え、望ましいと思います。

「賛美歌が、それぞれの時代や社会の影響があるのは仕方ないことだから、いちいち評価するのは良くないこと」と考え、無自覚にただ歌うというわけにはいきません。今もその言葉において排除され、傷ついている人がいることを見過ごすわけにはいかないからです。そんな賛美歌から私たちの生き方、考え方を問われながら新しいものが生まれてくる事を望みたいと思います。私たちのイエスさまへの信仰告白だからです。

新生讃美歌ブックレット 発行へ向けて

今年で『新生讃美歌2003』刊行より15年となります。この間、広く賛美歌集が用いられ歌われたことを通して気づかされたことや、『新生讃美歌』の推進から始まった「全国礼拝音楽研修会」で積み重ねてきた「礼拝と賛美」の学び、そして2008年から開始した賛美歌検討委員会による賛美歌の評価、「ことば」の取り組みなど、諸教会の皆様と共有することの必要を感じていました。加えて、まだまだ『新生讃美歌』を使い歌いこなしていないとの声を受け、賛美歌の歌い方や伴奏の工夫など紹介することで、各教会がさらに『新生讃美歌』を活用して、礼拝と賛美に臨めるようにと願い「新生讃美歌ブックレット」編集企画が始まりました。現在、発行に向けて最終段階にあり、夏前にはご案内できるよう準備しています。以下、目次より内容を紹介します。

I より良い礼拝賛美を求めて

- ・新生讃美歌の特徴 ・信仰告白としての賛美歌 ・ことばを意識して
- ・礼拝の中での賛美 ・会衆賛美の意義 ・賛美歌の音楽
- ・教会での取り組みの紹介と賛美歌の言葉の意識化へ

II 新生讃美歌Q&A

- ・楽譜の情報 ・速度について ・著作権

より良い賛美をささげるために

- ・曲の背景を知る ・選曲 ・ハーモニー ・伴奏の工夫 ・アレンジ、歌い方の工夫
- ・新しい賛美について プレイズ&ワーシップ、ヒム・エクスプロージョン ・創作賛美歌

III 各種資料

- ・用語解説 ・6 特別委員会アンケートから ・不快語・差別語と言葉の提案
- ・こどもと歌う『新生讃美歌』 ・著作権プロセス

*** 連合や地域での「新生讃美歌ブックレットを用いての研修会」開催をお勧めしています。詳しくは教会音楽室までお問い合わせください。**

第13回礼拝音楽研修会 in 旭川 報告

研修会までのプロセスから学ぶ

教会音楽室長 江原美歌子

第13回礼拝音楽研修会が極寒の北海道、旭川で開催され、雪による天候の心配もありましたが、すべてが守られ、研修会が豊かに祝されました。

これまで「全国」を冠していた研修会でしたが、地域に密着した研修会の在り方を願って、今回から「礼拝音楽研修会」としてはじまった第1回目です。場所は2008年に第4回を札幌で開催して以来の北海道を候補にあげ、北海道連合会長の田森茂基氏を交えての教会音楽専門委員会議では場所の選定からはじまりました。北海道は札幌への交通は整っていますが、他地域間の電車による移動は不便で、また車では何時間もかかること等、まずは北海道の交通事情を知ることからはじまりました。また、北海道連合は広範囲なこともあり、普段は3つの道東、道南、道央の地域ごとの協力関係があり、札幌には集まりやすいという利点はありますが、今回はあえて違う地域の「道東」と「道南」での開催を決定していきました。日程は、連合、連盟のスケジュール調整を経て、冬の北海道の礼拝を知ってほしいとの願いを汲み、連盟の協力伝道週間中の2月3-4日となりました。

研修会をつくる過程で心がけたことは、連盟が内容も含めてすべてのプログラムを「提供する」形式を見直すことでした。これまでの音楽研修会では講師の指導による分科会など、受講型が多いなか、今回の講演を通しての学びあいと、グループに分かれてのわかちあいのプログラムは、一人ひとりが、一参加者として研修会に臨めたのではないかと思います。研修2日目の2月4日は、旭川地区2教会それぞれの要望を受けて、研修内容を検討し、旭川教会では教会音楽委員が礼拝の中で賛美の奉仕をもって関わりつつ礼拝し、午後は、講師のリードによる賛美研修、旭川東光教会では、室長が礼拝に参加し礼拝を見ることが要望され、午後は教会の皆様と礼拝を語り合う時としました。この研修会を作るプロセスは新たな経験であり、今後の研修会の作り方に多くの示唆を与えるものとなりました。

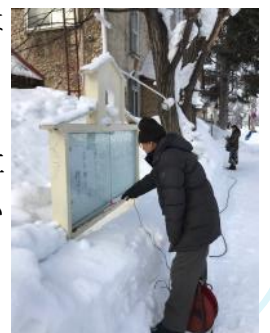


2月2日（金）前日

旭川に前日入りし、空港からの車では凍り付いた道路の上を走ることを経験、雪国に降り立ったことを実感しました。また夜には翌日の準備を旭川教会でしましたが、話し合いのために部屋を暖めるのにも相当な時間がかかること、また、夜間では水道管が破裂しないように水道管の元栓を閉じること、排雪穴の存在など、日々の生活の中のご苦労を垣間見る思いでした。

2月3日（土）当日

9時30分、旭川教会に到着。昨夜車からみた夜道の雪景色とは一変して、一面は銀世界。教会の玄関先では凍ったガラスケースの看板扉を開くために、ドライヤーで氷を溶かしておられる壮年が奉仕されており、毎週の礼拝の整えがここからはじまっていることを知りました。研修会には札幌教会から13名が電車で、帯広教会からも3名が遠路車で来てくださり、寒さの中、研修への熱い思いをもって参加された皆様の期待を受け、研修会が始まりました。



開会礼拝 賛美とメッセージ 10:00～10:30

開会礼拝は、田森茂基氏の司式、新生讃美歌14番「心込めて主をたたえ」の賛美をもってはじまりました。以下、宇都宮毅専門委員によるメッセージをご紹介します。

「神の息を受けながら」創世記2章7節 宇都宮毅（岐阜）

創世記2章7節には、神は、この地上の土で、人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられ、土くれだった人間が、生きる者となったとあります。命の息とは、神の呼吸であり、神の霊、神の言葉とも言えるものです。それは神と共に生きる者となるためであり、神の命の息において、人と神がつながっていたということです。しかしその関係は、あの善悪の実を食べることによって壊れていきました。善悪を知る木の実を食べてはいけないとの神の言葉が、彼らの中から失われたとき、神との関係、人との関係が崩壊していったのです。



賛美をするという行為は、対象を神としながら、息を合わせるということを必ず行っています。そしてそこには共に歩むことが困難な他者も存在し、そのままでは、アダムとエバのように、責任を相手のせいにする醜い争いが起こるでしょう。マタイ5章24節で、イエスは「その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。」と語ります。私たちは、礼拝を献げるという行為の前に、和解をしてから、礼拝を献げよというのです。しかし和解のないままでは礼拝ができないとしたら、私たちはいつまでも礼拝に集まることができません。そんな私たちが、教会の礼拝において、息を合わせ、楽の音に合わせ、神に向かって歌い、賛美の時、互いの声を聞き合うのです。それは、私たちの和解の先取りであり、和解そのものということができます。そして、賛美は、神からの恵み、神からの励まし、神からの癒し、神からの希望など諸々のものを含んだ神の言葉、神の息、命の息への応答です。私たちは、生きる者とされるために、まず神から命の息が吹き入れられ、共に生きる者とされ、他者との和解を行っているのです。

そのような礼拝が繰り返し行われているのは、神がどうしようもない私たちをあきらめていない証拠であり、私たちが神の赦しの中にあるといえるでしょう。その神の赦しがなければ、私たちは礼拝も、賛美も行うことができません。

私たちは、生きる限り、礼拝者として、神からの命の息を受けつつ、神と他者と共に毎日を過ごしていきます。そんな中、和解そのものの行為として私たちは歌い、奏でるのです。

私たちの人生において、神の命の息を確認し、私たちは共に歌えない人々とこの瞬間、息を合わせて、歌うことは救いであり恵みです。研修の中で、神からの息を中心に置きながら、互いの息を合わせることの素晴らしさを確認してまいりましょう。



第13回礼拝音楽研修会 in 旭川

講演 10:40～12:00

「礼拝と賛美 ～私たちの賛美って」

教会音楽室長 江原美歌子

講演では、以下のレジュメを用いて研修していただきました。

内容については、5月開催の第13回礼拝音楽研修会 in 函館後ご報告いたします。



- ①礼拝の中の啓示と応答で対話、賛美は対話をつなぐ
- ②神殿礼拝～シナゴーク、礼拝の変遷と礼拝の中の「対話」
対話の中で起こされる「できごと」、「ハプニング」
- ③パウロの賛美のエフェソ5:18、コロサイ3:16の「互いに」から
 - ア) 会衆の中の「互いに」、「交わり」の大切さ
 - イ) 交わりを通しての「わたしたち」の応答
- ④「わたしたちの賛美」と「礼拝の対話」、教会の賛美の歴史から
 - ア) 会衆賛美が無かった1150年間、その後の会衆賛美の復活と会衆の礼拝参与
 - イ) バプテストの礼拝と賛美、誰が賛美に参加できるかのこだわりと論争
 - ウ) キャンプミーティング以降の福音唱歌の起こりと賛美の中身
 - エ) 『新生讃美歌』の歴史
 - ・伝道、新生の喜びを歌う賛美歌集から
 - ・賛美歌創作の推進と1989年版
 - ・「礼拝で歌う1冊」として、「礼拝歌」の柱が加わった2003年版
 - ・私たちの賛美をあらわす歌集へ
 - オ) 『新生讃美歌』の遺産とこれから
 - ・これからの賛美歌を創る私たち
 - ・私たちの賛美って？の取り組みの継承

オプションプログラム 奏楽者講習会 14:15～16:00

「奏楽者の備え～会衆に仕える伴奏法～」

講師:小松澤 恵

1. 礼拝における音楽の目的
2. 会衆賛美の働き
3. 礼拝奏楽者の責任
4. 伴奏法（会衆賛美・器楽アンサンブル）
5. アレンジについて（基本 ＜音楽の3要素を意識して＞、転調）
6. アルペジオ奏法の秘訣

※レジュメを希望の方は、教会音楽室までお問い合わせください。

旭川教会の要望を受けてのプログラムでしたが、当日は札幌教会8名、旭川東光教会1名、旭川教会6名、講師・スタッフで総勢19名の参加があり、奏楽者の心得を中心に、礼拝の奉仕、奏楽の備えについて学びあいました。教会では奏楽者が学びあう機会がなかなかもてないこともあり、学びが有意義であったとの感想や、奏楽者としての日頃からのチャレンジをわかちあい、共に働きを励まし合うときとなりました。

第13回礼拝音楽研修会

グループによるわかちあい 13:00～14:00

昼食後、5グループに分かれた懇談では、講演を受けての応答をはじめ、それぞれの礼拝や賛美について振り返るときとなりました。グループの報告から、いくつか話し合われた内容をご紹介します。

講演を受けて

- ・共に賛美すること、息をととのえあわせるということは、隣の人に寄り添うこと。「生きる」ということと通じるのかもしれない。
- ・なぜ賛美すると力がわくのか？それは、神の息が吹き込まれ、生きる者とされたことの喜びから。
- ・礼拝の中で賛美を通して神と対話、応答できることをあらためて感謝したい。
- ・神と私の交わりだけでなく、神と「私たち」という交わりがあることを学んだ。
- ・賛美について学んだことははじめて。賛美の働きと意味をあらためて知った。

賛美歌について

- ・日本の賛美歌の言葉は、今の時代にどうとらえられているか？教会で使用している言葉が、教会の外では馴染まないのではないか。
- ・賛美歌は説教だと感じることもある。歌詞の大切さを再確認したい。
- ・賛美には「こうでなくてはならない」というものはないのではないか。どのジャンルであっても主への賛美となる。
- ・歌詞を理解し自分のことばとして歌いたい。
- ・賛美は生きてる中での神への祈りと叫び。
- ・賛美指導しているものとして、礼拝の中の賛美の働きを再確認した。さらに賛美の言葉を丁寧に伝えていきたいと思われた。
- ・賛美の音楽の重要性。言葉は時代にあって変化する場合もあるが、音楽は変らない。

これからの賛美歌

- ・これからの賛美は？と問われ戸惑った。与えられたものをただ受け取るだけの自分だったが、違う角度からも賛美を考えたい。
- ・賛美歌を歌うなか、ある言葉で、痛みを感じる人がいることを知った。なぜ、痛みを感じるかを理解していきたい。
- ・賛美歌の歌詞を問い直す機会がなかった。各々がまずその意味を考えることからはじめ、私たちの信仰をどう現わしていくかを問い直していきたい。
- ・東日本大震災後、なぐさめや励ましとなる新しい賛美歌の必要を感じている。

礼拝と賛美

- ・礼拝の参加者（子どもの参加の有無等）によって賛美歌を変更したり、式順を変えるなど、教会の群れに相応しい礼拝を求め試行錯誤している。
- ・説教と賛美歌選曲、礼拝の流れなど、チームで準備することで、礼拝への備えが祝されている。
- ・聖歌隊をしていて、自分の立ち場がわからないときがある。確認して礼拝に臨みたい。
- ・礼拝の中で会衆賛美が変えられていくことを経験する。礼拝で受ける力によるものか。



※ わかちあいの後、新生讃美歌8「主の呼びかけにわれらこたえ」を賛美し、祝福の内に閉会しました。

※ オプションプログラムとして、14:15～16:00 左ページの内容で奏楽者講習を開催しました。

礼拝音楽研修会礼拝レポート

旭川教会主日礼拝に参加して

教会音楽専門委員 小松澤恵（大久保）

2月4日は専門委員と室長が旭川教会、旭川東光教会の主日礼拝に出席し、それぞれの参加の仕方で、主日礼拝を経験しました。2教会の礼拝レポートをご紹介します。



《2018. 2. 4 旭川教会 主日礼拝プログラム》

司会 本田和芳

奏楽 小松澤恵

前 奏 “聖なる 聖なる 聖なるかな”
招 詞 詩編6編2～11節
讃 美 119“父なるみ神は いとつよきみ神”
祈 祷 司会者
献 金 (祈り)本田嘉美 広川晶代
交 読 交読文45.「スチュワードシップ」
賛美と証し

“つながろう つなげよう 主イエスさまに”
小松澤恵

讃 美 “主と” 一 同
“主を待ち望む者は”

祈りの時

主の祈り

聖 書 ホセア書 6章4～6節
宣 教 「神の喜びのために」 田森茂基牧師
讃 美 14“心込めて主をたたえ”

受浸者祝福式

主の晩餐式 (配餐当番 福田史子 広川晶代)

讃 美 413“主イエスのからだ分かち”
頌 栄 668“みさかえあれ”
祝 祷 田森茂基牧師
後 奏
報 告

- ・礼拝5分前に、司会者、宣教者、奏楽者、賛美チーム（アコースティック&エレキギター、カホン、ピアノ）などが集まり、礼拝の奉仕者で祈りの時をもつ。
- ・司会者の「開会宣言」により、奏楽がスタート。招詞、賛美、祈祷、献金（祈りが先）と続く。1/28～2/4までが連盟協力伝道週間であり、その最終日の主日であったことから、交読文45「スチュワードシップ」を交読した。
- ・「礼拝音楽研修会」のため専門委員として派遣された小松澤による「賛美と証」。大久保教会からも祈られ送り出されていること、大久保教会と旭川教会との協力伝道でもあることをお話した。大久保教会の2016年度年間賛美を紹介した。
- ・賛美チーム「シャイン」のリードによる賛美タイム。プレイズソングのようなジャンルのものが2曲賛美された。前方に歌詞を出しつつ、見えない人のためには楽譜コピーファイルがその時に配られる。
- ・静かなピアノ奏楽のうちに「祈りの時」という時間になり、各自祈りを捧げる。5分ほどの後、牧師による祈りに続き、会衆による「主の祈り」が捧げられた。
- ・続いて、牧師が宣教に入り、宣教の中で、本日の聖書箇所が牧師によって読まれる。
- ・宣教後の祈り、会衆による応答賛美の後、主の晩餐式に入る前に、この月に受浸した方を覚えて紹介する。主の晩餐式は、田森牧師の焼いた一つのパン（ナン）を会衆が各自ちぎっていた。奏楽者も最後に奏楽を止めてパンを自分でちぎる。パン配餐のタイミングの前に、各座席にウェットテッシュが配られており、衛生面での配慮もあり。パンの配餐の後、413番「主イエスのからだ分かち」の1節のみを会衆賛美しながら葡萄酒の配餐。その後、カップの回収をしつつ、413番の2,3節を賛美。

旭川教会主日礼拝に参加して 感想

旭川教会は、いろいろな人々が集っているので、柔軟性をもって対応できるプログラムを心がけているとのことでした。会衆賛美においては、伝統的な賛美とともに、賛美グループ「シャイン」によるリードでシンプルなプレイズソングのようなものも取り入れられています。プレイズソングは高齢の方々にも好評だそうです。晚餐式は田森牧師のこだわりで、ひとつのパンを分け合うというスタイル。その際に衛生面で気になる方々への配慮で、ウェットティッシュが準備されていることもよい心遣いだと感じました。当日の奏楽を依頼され、担当しましたが、普段一緒に礼拝していない教会で奏楽することの困難さを感じました。特に弾き始めるタイミング、止めるタイミングなど「祈りの時」や「晚餐式」での奏楽が難しかったです。一方で普段奏楽をしている方々にとっては、外から来た者の奏楽がよい体験となったようで、「真似はできないがいろいろと参考になった」という感想をいただきました。

旭川教会 午後の賛美研修会（13：00～14：30）

テーマ「賛美の豊かさを求めて」

講師：小松澤 恵

実際に声を出してたくさん歌うことと、今の宣教課題を踏まえた賛美紹介を中心に研修していきました。

【研修内容】

- 1) ストレッチ、息の使い方、発声。
- 2) 日本の賛美歌の起点「主われを愛す」を最初の日本語翻訳で歌う。
- 3) 会衆賛美の働きの重要性

「リアリティーのある賛美」を求めて起こった2つの会衆賛美の動き「Hymn Explosion」と「Praise & Worship Movement」を紹介。その動きの中でできた賛美歌を『新生讃美歌』の中から紹介し、歌う。その中で、音楽的特徴や歌い方のコツ、歌詞の発音の仕方などをアドバイス。

- 4) 「今の私たちの賛美」ということで、賛美の創作をお勧めしつつ、大久保教会で生まれ歌われている賛美を紹介し歌う。

【感想】

1時間半という短い時間でしたが、礼拝で歌っていた時とは別のメンバーかと思われるほど、歌声に変化がありました。「顔を上げて」、とか「口を開けて」、という簡単なアドバイスと、曲の内容、背景を知っていく中で、それぞれ自信をもって歌えたようでした。終わった後、皆さんからは口々に「楽しかった」と感想をいただきました。なかなか発声のこと、賛美歌の話を聞く機会がないとのこと、自分の教会でこのような研修が受けられたことは大きな喜びであったようです。全国の諸教会の協力伝道献金によって、一つの教会が喜び豊かにされたことは素晴らしい経験となりました。「連盟主催 教会音楽室による研修会」の持ち方についての課題や示唆を受けたことは、今後につなげていきたいと願っています。



礼拝音楽研修会礼拝レポート

旭川東光教会主日礼拝に参加して

宇都宮毅、江原美歌子

旭川東光教会の主日礼拝には宇都宮毅教会音楽専門委員と江原が出席し、主日礼拝に与りました。

2018年2月4日 #1766

司会／向田薫江		受付／向田初穂
奏楽／PC・ギター		PJ／藤原直之
前奏		
さんび	11「たたえよたたえよ」	みんなで
主の祈り		
証し	向田初穂	
さんび	665「愛を伝えよう！」	
証し	山川敏恵、天野二三	
さんび	300「罪ゆるされしこの身をば」	
証し	藤原直之	
さんび	476「ゆるされて」	
証し	江原美歌子	
さんび	464「主が来られて 呼んでおられる」	
献金	お祈りと奉仕 田中麻依子	
報告とお知らせ		
とりなしの祈り		
教会の祈り		司会者
聖書	詩編34編1～4節(旧約p864)	
メッセージ	「みんなちがって、みんないい」	
	牧師 松坂克世	
さんび	463「こころの扉」(今月の賛美歌)	
主の晩餐	413「主イエスのからだ分かち」	
頌栄	669「みさかえあれ(B)」	みんなで
祝祷	松坂克世	
後奏		

(週報はA4とB4の三つ折りの二種類)

- ・司式者の笑顔とアナウンスにより、礼拝が開始された。凍てつく雪道の中、緊張して集められたものとして嬉しい礼拝への招きをいただいた。
- ・リードオルガンを用いた松坂牧師による前奏、シンプルでゆったりとした曲想。心が静まり礼拝への姿勢が整えられた。
- ・牧師がギター伴奏のため移動、ギターの準備までの時も急ぐことなく、会衆が賛美の時を待つ。プロジェクター (PJ)により会衆は前を向いて賛美。
- ・プロジェクターに映し出される歌詞は担当者が作成しているとのこと。
- ・4名の証し者による賛美にまつわる証しを聞き、選ばれた賛美歌を共に歌う。
- ・ここでの伴奏はCD-ROMが用いられた。テンポ等よかったが、CD-ROMの限界か、息継ぎのためのフレーズ間の間隔が短かく感じられた。
- ・礼拝の賛美をCDROMの伴奏で歌う経験は貴重だった。
- ・曲によって、リードオルガン、ギター、CD-ROMと使い分けられており、相応しく楽器が用いられていた。
- ・信徒の証しに聞き、愛唱歌を歌うことは、その信徒の方に寄り添うことにつながると、礼拝後の感想で分かち合われていた。
- ・主の晩餐 413番の1節を歌い、配さん。無音の中祈りをもってパンと葡萄酒を受ける。その後2節、3節をCD-ROMの伴奏でカップの回収とともに賛美、カップ回収も賛美の中で意味付けられていた。
- ・会衆賛美には「一同」ではなく「みんなで」とあり、旭川東光教会ならではの表現だと感じた。

※礼拝後、テーブルを正方形に囲んで食事の交わり。午後は参加者の皆様と教会の礼拝について語り合いました。



旭川東光教会「主日礼拝に出席して」

教会音楽専門委員 宇都宮毅（岐阜）

雪に埋もれていることを忘れてしまうかのような暖かい会堂の中で、一人の礼拝者として主日礼拝に出席させていただきました。久しぶりに、牧師という肩書きを降ろし、一人の信徒として、礼拝を献げるのは、どれくらいぶりだったのでしょうか。まず感じられたことは、私の属する岐阜教会のものと、その礼拝の空気感が違うということでした。それは、集まっておられる方々の生き様の違いから来るものであり、また旭川東光教会のこれまでの歩みというもの、そこにはあったのだらうと思います。さらに、礼拝の進むスピードも違っていたのです。ゆっくりと、共にという雰囲気がそこからあふれ出ています。礼拝という同じ神の命の息を吹き込まれる時、集められた人々の違いによって、表現される時や空間が違うことに気がつかされました。

そして最近、奏樂者がいなくなったということで、松坂克世牧師が今まで行ったことがないリードオルガンでの前奏を演奏し、引き続き、会衆賛美をギターでリードし、それに続いて、教会員の方が新生讃美歌のCD-ROMを用いながら、会衆賛美を導いている姿は、まさに共に礼拝を献げる姿そのものでした。礼拝とは、集まっている人たちの現実の状況が如実に表れるものであり、その人たちが神を中心にしなが、今できる精一杯のものを献げているということをはっきりと教えられたように思います。

またこの日は、賛美礼拝ということで、何人かの教会員の方々、そして江原室長の証しをお聞きしながら、その証しに応答する形で、その方の愛する賛美歌が歌われました。そこにも、お一人お一人の人生の営みがあることを感じることができました。

今回「一人の礼拝者」として出席したことを通して、礼拝を献げる・形づくるとは、私たちの生き様そのものであることを教えられました。だからこそ、各教会の礼拝が異なり、豊かであるのでしょう。これからも、多くの方々と共に、神によって、生き様を織り成されているような礼拝を大切にしていきたいと思います。

旭川東光教会の礼拝を経験していただいて 松坂克世（旭川東光）

「何もしないでわたしたちの礼拝を見て欲しい、そして率直なご意見を伺いたい」とのこちらからの要望に、室長、専門委員の皆さんは戸惑われたと思います。実際に奏樂者がいないところで努力して礼拝をしている地方の教会の礼拝から何か今後の取り組みに資するものをお互いに共有したいという思いから、そのようなお願いとなりました。今後も、決まったプログラムメニューを教会に持ち込むスタイルでなく、一緒にその礼拝に参加して客観的な意見や感想をその教会と分かち合う今回のような研修が必要ではないかと思っています。

礼拝後の研修会で、教会の礼拝について、自分がどう思っているのかをお互いに聴きあうことができました。「井の中の蛙かもしれないけど、この教会の礼拝が一番だと思っている」など、普段聞くことができなかったことを聞くことができました。これも研修をしなければ聞けなかったことだと思います。このようにお互いの思いを分かち合っていくことも礼拝の大切な要素であると思います。わたしたちは、礼拝共同体なのですから。



第13回礼拝音楽研修会、主日礼拝、賛美研修会を終えて

北海道連合会長、第13回礼拝音楽研修会連合側スタッフ **田森茂基（旭川）**

1. 計画と準備

2016年度に、教会音楽室より北海道連合に対して、「第13回礼拝音楽研修会（2017年度に開催）」についての打診があり、当該年度の連合会長（当時は副会長）として企画の段階から会議に加わらせていただいたこと、またプログラムも開催地域の教会のニーズを受けて準備して下さったことは感謝でした。



一方で反省としては、「主催が不明瞭であった」という点が挙げられます。「主催（問い合わせ先）が連盟なのか、連合なのか、旭川教会なのかよく分からなかった」という指摘を受けました。これは、旭川教会代表（牧師）である私が、連合の代表（連合会長）であることにも起因していると思われます。連合内の連携（共通参加申込書配布や交通費補助検討等）、連盟との連携を密にすることで、さらにより協働の業が起こされていくのではないのでしょうか。

2. 第13回礼拝音楽研修会 内容



こちらからの要望が反映されたプログラムとなり心から感謝いたします。加えて、時代ごとの課題やニーズを受けて、賛美の言葉も吟味すべきことを積極的に捉えると共に、賛美を通して表現する自分たちの信仰を繰り返し問い直していく事の大切さを学ばせていただきました。賛美も「誰と共有するのか」という視点に立って、言葉の吟味を重ねていくことが大切であることを学びあうことができました。

3. 主日 教会にわかれての研修

旭川教会では、小松澤委員に奏楽奉仕と証ししていただき、祝福と刺激をいただきました。前日に奏楽者の心得についての研修があり、奏楽奉仕者にとっては、備えも含めて礼拝奉仕への姿勢を見ることができました。また、礼拝後の賛美集会でも、参加者が心から楽しんで賛美をする時となりました。

奏楽奉仕を担っていただいたことで、いつもの旭川教会の礼拝とは異なっていましたが、雰囲気は感じ取っていただけたのではないかと思います。何より、旭川の冬の自然環境の中での礼拝を共有していただけたことは感謝でした。また今回奏楽奉仕を依頼したことで、改めて奏楽奉仕者に託している働きの具体（演奏だけでなく、礼拝という空間作りの協働）を再確認する時となりました。

4. 旭川教会メンバーの感想

研修会を経て、礼拝の会衆賛美が大いに励まされたと感じています。また、研修の影響からか、その後、久しぶりに聖歌隊練習に参加した方もおられます。2月3日の公開プログラムでは旭川外からも大勢の参加者があり、受け入れ側としての反省もありましたが、両日の主日礼拝、賛美集会を通して、実り多き2日間となりました。

研修後「オルガン（リード）」の奏講習を受けたいとの新たな要望が出てきました。また、自らの信仰の表現として新しい賛美歌作り（作詞、作曲）なども、今後の学びのテーマに出来たらと願っています。

神戸地区4教会合同「礼拝賛美研修会」の感謝 ♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

神戸バプテスト教会 西脇慎一

2018年1月21日（日）、4教会合同「礼拝賛美研修会」が神戸教会を会場に行われました。4教会とは、1950年にR.C.シェラー宣教師の来神によって蒔かれた福音の種から実った神戸教会、神戸西教会、宝塚教会、神戸伊川教会のことです。

私たちは普段はそれぞれの地で礼拝・伝道に取り組んでいますが、年に一度、合同礼拝を守っています。それが永眠者記念礼拝です。舞子墓園に建てられた今年35周年を迎える永眠者記念堂の設立理念は二つありますが、墓碑に刻まれた「我らの国籍は天に在り」という言葉に集約されます。一つは信仰の先達者たちを記念し偲び感謝すること。もう一つは、私たちは主イエス・キリストの福音宣教のためにこの地に遣わされているという原点を確認し思いを新たにすることです。

今回の「礼拝賛美研修会」は、永眠者記念堂35周年を記念し設立理念を4教会で今一度確認し、これまでの歩みの感謝と今後の宣教協力の祈りのために企画したもので、教会音楽室からは浦和教会の山中臨在先生を講師として紹介・派遣していただきました。講師紹介とアピールもあり、さらに近隣の教会から参加者が与えられ、総勢64名の豊かな時となりました。

研修会では賛美歌をたくさん歌って会衆を一つにしていくのかと想像していましたが、山中先生の狙いは、「一人一人の賛美」を自覚させることにありました。これまで賛美と言うと「歌」とい

う先入観がありましたが、賛美には様々あり、芸術も賛美、生け花も賛美。司会や祈りなど様々な形の賛美があり、これらの「〇〇で」主を賛美すること、そのそれぞれ異なる賛美の集まりが、「礼拝」なのだということを教えられました。

逆に言う「賛美歌」を歌っていても賛美していないことがあるのかもしれません。私は決まりきったイメージ（テンポ・リズム）でしか考えていませんでしたが、しかし、そのような「固定観念」から解放されて、歌詞と曲を自らの思いと合わせていくとき、その歌はまさに「豊かな賛美」となっていくことを学びました。「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。」（ローマ12:1）この言葉に立つときに、私たちの教会の今後の福音宣教の歩みがまさに主によって導かれていくのだということを再確認する研修会となりました。



各種礼拝音楽研修会・奏楽講習会開催のオススメ

連合や地域での研修会に、教会音楽室では講師紹介や講師の交通費補助等の支援を行っています。研修会の内容についてもご相談ください。

お問い合わせ：048(883)1091 宣教部 教会音楽室

「第13回礼拝音楽研修会 In 函館」のご案内 NO.3

「第13回礼拝音楽研修会 In 旭川」に続いて第2弾として、北海道道南地区で第13回礼拝音楽研修会 In 函館が開催されます。

日程:2018年5月12日(土) 午後～奏楽、聖歌隊奉仕者/指導者を対象とした実技講座(会場:函館教会)、公開プログラム。

5月13日(日) 2教会での主日礼拝、午後は賛美の学び

それぞれの地域の教会の皆様と出会い、共に礼拝と賛美を学び合い、賛美の恵みを分かち合わせていただきたく願っています。ご参加希望の方は、教会音楽室までお問い合わせください。



教会音楽室からのお知らせ

『新生讃美歌』を増刷します。(4/1)

『新生讃美歌2003』が発行されて15年、今回1000冊を増刷することで、総数3万部を発行することになります。諸教会で広く用いられていることを心より感謝いたします。

今増刷で特記すべきは、以下の曲の著作権が消滅し、著作権フリーとなることです。

今後、印刷・コピーなどで使用する場合は、翻訳使用として日本バプテスト連盟への申請のみとなり、使用許諾申請手続きが簡単になります。

30番 「ものみなたたえよ み神を」

410番 「信ぜよ信ぜよ」

79番 「ものみなたたえよ」

426番 「語りませ主よ」

122番 「み神の力をほめたたえよ(B)」

479番 「深い罪に悩むとき」

125番 「造られしものよ」

525番 「主によりて足れり」

262番 「み霊よくだりて」

583番 「イエスにある勝利」

284番 「救いの主なる恵みの神よ」

584番 「主なる神よ み言葉にみたされ」

380番 「罪の世に過ぐす」

621番 「われに従えとイエスは招く」

388番 「主よわが心に」

627番 「成したまえ汝がむね」

尊いお働きを覚えて

前宣教部音楽主事の藤澤一清氏が3月4日に天に召されました。藤澤氏は1935年12月13日、宮崎市生まれ、1952年10月、岡山教会にて受浸、西南学院大学神学部卒業後、東熊本、岐阜、川越、花小金井各教会で牧師として従事されました。連盟の働きでは2014年からは憲法改悪を許さない私たちの共同アクション担当者会委員長を務められていました。

連盟宣教部では1991年～2004年の間、音楽主事として主に『新生讃美歌』編集の実務に当たられ、新生讃美歌編集委員会の働きを支え、選曲、翻訳、会計、出版、編集に関わる担当者との連絡ほか、多岐に亘る編集の働きを担われ、682曲もの賛美歌を収録する『新生讃美歌』出版という日本バプテスト連盟にとっても大きなプロジェクトとなった賛美歌編纂に尽力されました。

花小金井教会藤井秀一牧師の司式にて執り行われた3月6日の告別式は、心に響く賛美であふれていました。イエスに愛されていることの証しである賛美歌523番「主われを愛す」をはじめ、2つの藤澤氏訳の363番「キリスト教会の主よ」、338番「キリストの基」を、訳詞を通して込められた信仰告白と証しを覚えつつ声をあわせました。多くを学ばせていただいた賛美歌への取り組みや同氏の賛美を愛された信仰の歩みを覚えつつ、働きを継承していきたいと願われています。